

《担当者名》○平 典子 [hiran@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 熊谷 歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 三津橋 梨絵 [mitsuhashi@hoku-iryo-u.ac.jp]  
 石岡 明子(非)  
 小林正伸(兼任) [mkobaya@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

がんの診断から治療期、再発やエンド・オブ・ライフ期に至るがんサバイバーシップ概念を学び、その過程における病名・予後告知、治療選択、治療経過に伴うがんサバイバーの複雑な健康問題に対する包括的な援助方法を学ぶ。病態生理学の知識、文献クリティークによるエビデンスを統合した援助方法を修得する。また、がん予防に関する支援の課題とあり方を検討する。

【学修目標】

1. がんサバイバーシップでのサバイバー・家族の身体的、心理・社会的課題を説明できる
2. がんの診断から治療選択、治療に伴う包括的なアセスメントと援助法を説明できる
3. 文献クリティークを通して、高度な看護実践の基盤となるエビデンス、有効な方略を探求できる
4. 倫理的課題に対して、倫理的判断・意思決定モデルを活用した援助、CNSの倫理調整を修得する
5. がんの予防教育の目的、内容および方法を探求できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	がんサバイバーシップにおける看護援助	1) がんサバイバーの概念および治療環境の変化に伴う今日的な変化を考察する 2) 研究動向を踏まえ、がんサバイバーシップでのサバイバー・家族の身体的、心理・社会的課題に対する看護援助について探求する	三津橋 平 熊谷
3 ) 4	がんの診断から治療選択における看護援助	1) がんの病態、診断プロセス、治療の特徴等をふまえて診断から治療選択の看護援助を探求する (Case-basedディスカッション) 病名・予後告知 治療選択	熊谷 平 三津橋
5 ) 8	がんの集学的治療に伴う看護援助	1) 診療・支持療法等各種ガイドラインやアセスメントツールなどエビデンスに基づく看護援助を探求する。 ・がん化学療法、手術療法、放射線療法中の身体  管理と看護援助 ・有害事象に伴う日常生活の影響への援助 ・がん治療による短期的、長期的な器質的・機能的変化に対するリハビリテーション	熊谷 小林 平 三津橋
9 ) 10	がんの補完代替療法を用いた看護援助	1) 補完代替療法の分類と名称、内容を学習する 2) 補完代替療法ガイドラインを参考に、エビデンスに基づく活用法を探求する	熊谷 平 三津橋
11 ) 12	がんサバイバーシップにおける倫理的課題と看護援助	1) 病名・予後告知、治療選択をめぐる倫理的問題を整理する 2) 倫理的判断・意思決定モデルにもとづき、がんサバイバー・家族の意思決定を支える看護援助を探求する 3) CNSの倫理的調整を探求する (case-based ディスカッション)	石岡 三津橋
13 ) 15	がんの予防における看護援助	1) がんの予防医療における動向と課題を整理する 2) がんの予防教育の取り組みを文献から整理し、予防教育の目的、内容、方法、CNSの役割を探求する	三津橋 平 熊谷

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

課題レポート（50%）、プレゼンテーション（25%）およびディスカッション（25%）から総合的に評価する。

**【教科書】**

随時提示する

**【参考書】**

随時提示する

**【学修の準備】**

関連資料および関連図書を熟読して臨む。

**【学習方法】**

各テーマの課題に対するプレゼンテーションとそれに対するディスカッションにより学習を深める